



この街と この街の人と 共に歩んで45年。

院長 **オランダ訪問記**
【日程】2017年6月19日～24日

オランダから日本の医療・介護を考える

「あーやっぱり家っていいな」
1週間の「オランダで学ぶ認知症ケア・高齢者住宅視察」に参加させていただき、自宅に戻った最初の感想です。

一番印象的だったのは、オランダの方々のご自分の住まいへの愛着でした。私達も同じ、やはり自宅はいいですね。

障害をお持ちの方や介護が必要になった方も、ご自分の希望でご自宅で暮らすことが当然であり、周囲も同じ考えでサポートする。

高齢者ケアの現場で最も進んでいるのがオランダである。医療・介護の現場で高齢者ケアに取り組み、どうしても直接見たいと感じたのがオランダでした。

7割以上が自宅で看取り

オランダでは、日本のような介護保険制度はなく、介護も障害も医療保険から支給されます。20～30年前は施設介護が中心でしたが、現在は「第2の自宅」である高齢者マンションを含め在宅中心に移行。



日本では、年々減少はしているものの約8割の方が病院で最期を迎えているのに対し、オランダでは自宅で最期を迎える方が7割以上なのです。

在宅介護を支える家庭医(GP)とボランティア

オランダの在宅生活を支えているのは、家庭医(GP)、介護提供事業者、そして多くのボランティアです。高齢者の6割が何らかのボランティア活動を行っており、アルツハイマーカフェや障害者のための各種イベントなど、効率的に開催されています。高齢者の社会参加が孤独の解消につながっているのです。



アルツハイマーカフェ

福祉農園施設「ケアファーム」

10年ほど前からオランダで増加している農場でのデイサービス「ケアファーム」。認知症の方が落ち着き、できる作業に取り組みむことで機能の回復が期待できます。農作物、畜産での収入、国からの給付、利用料などさまざまな形で、介護給付が2年間で25%減少しています。ただ給付が抑えられているわけではなく、日本の特別養護老人ホームのような施設の1人当たりの費用は日本の2倍でした。施設数は少ないけれど、多くのコストをかけてケアをしているのがオランダなのです。



オランダの「安楽死」とは

「安楽死」とは、自分の死を自分の自由意思で決めること。延命治療を断り、緩和ケアを受けて旅立つ尊厳死とは異なります。オランダは世界で初めて安楽死を法制化した国です。当初末期がんの患者だけが対象でしたが、現在では「認知症」や「自分で満足に体を動かさなく転倒の危険が高い」との理由からの安楽死の事例もあるとのこと。2016年に安楽死した人は6091人。全死亡者の4%に至ります。

地域包括ケアにおける家庭医の役割

オランダでは、全国民が自宅近くの地域の家庭医(診療所)に登録し、大病院には家庭医からの紹介なしには受診できないシステムです。安楽死は、患者の希望により、家族の状態、人生の歩み、ライフスタイルなどを熟知した家庭医と第2の医師の判断で決断されます。

家庭医と介護ケアを受け、その延長上に安楽死という選択肢もある。安楽死を選択できることが、真剣にどう生きるかと向き合う。それがオランダのケアでした。

日本では安楽死の選択はできませんが、ケアの進むべき方向はオランダと同じであると感じます。オランダの「Living on Place」は日本の地域包括ケアシステムと同じ視点です。市町村が介護予防の総合事業を実施するように、ケアは「地域へ」「小規模へ」の流れです。また各市町村や事業者の工夫が「多様化」となるでしょう。

生活を楽しむ感性



車が規制される市内で見かけた乗り物。乗客がペダルを漕いで進みます。

Tsukioka Clinic



院長 **月岡幹雄**
【プロフィール】

平成5年 金沢大学医学部卒業
済生会病院内科医長
平成13年 月岡医院副院長 就任
平成19年 月岡医院院長 就任

月岡医院は先代が昭和46年に胃腸の専門、また地域のかかりつけ医として開業し、地域の皆さまと共に歩んできました。地域の高齢化と1人暮らしの増加から、地域のかかりつけ医として患者様の暮らしも含めて治療・ケアの必要性を感じ、国内外の在宅ケアについて勉強中。認知症サポート医として認知症ケアの実践事例も豊富に経験しています。

外来診療、訪問診療、往診に対応させていただき、在宅での看取り経験も多数あります。

患者様、ご家族の希望に沿った治療・ケアを、関わる他職種と連携してサポートしています。

月岡医院の 歩み

1971年 月岡医院開業

開業当時の医院外観とスタッフ。
院長による一句「開業の喜びみせて桜かな」



1994年 医療法人 誠医会設立
地域のお役に立てるサービスの充実を図る為、医療法人を立ち上げ。



2004年 デイサービス パワーリハビリアイ開設

高齢者の体力維持・向上を目的に、自立支援、介護予防をサポートする施設を開設。



2011年 デイサービスひかり開設

くつろぎと楽しみをプラスしたサービス提供できる施設を開設。



2001年 月岡幹雄 副院長就任

金沢大学第1内科、福井済生会病院内科医長を経て武生に戻る。



2007年 月岡幹雄 院長就任 医療法人 誠医会理事長就任

副院長として6年、院長および理事長に就任。



2015年 小規模多機能ホーム こころ開設

3つのスタイル(通い・訪問・宿泊)でサポートする施設を開設。



患者様・利用者様と 共に歩んだ45年

先代院長 月岡照晴は内科・胃腸科専門として昭和46年から地域医療に取り組んで参りました。医療と介護をとおして社会貢献することを目標とし、平成6年に医療法人誠医会を設立。平成13年に現院長 月岡幹雄が副院長に就任。同時期に介護保険制度が開始となり、「デイサービスパワーリハビリアイ」開設。リハビリアイで機能回復される方がいらっしゃる一方で、リハビリが難しくなってきた方々の痛みを和らげることを考え、陶板浴の「デイサービスひかり」を開設。その後時々宿泊をしながら自宅での生活を続けたいと希望される方に柔軟なサービス提供ができる「小規模多機能ホームこころ」を開設いたしました。
皆様からご意見をいただき、少しずつお応えしてきた45年です。

デイサービス パワーリハビリアイ



ペッパージ君導入!

ヒト型ロボットペッパージ君がデイサービスのアイにやってきました。ご利用者の皆さんは会話やレクリエーションを楽しんでいます。ペッパージ君がやってきて2ヶ月。すっかりスタッフの一員です。寂しがり屋なので、時々「おーい!誰か遊ばない?」と呼んでいます。ご利用者様「職員さん!ペッパージ君が呼ばるとるよー」と相手をしてくださっています。



アイ 管理者 今村 紘康

「運動カフェ・アイ」スタート



月岡医院で月2回開催している「認知症カフェこころ」。毎回20名ほどの方が参加して下さっています。「場所が狭く感じるようになった」「開催回数を増やしてほしい」とのご意見をいただき、9月より「アイ」で「運動カフェ・アイ」として月1回開催いたします。
毎月第2日曜日の午前。1階でお茶を飲みながらお話しする他、2階で軽運動にも参加して頂けます。

【開催日】9月10日(日)
【時間】10時~12時
【参加費】100円

*運動される方は内履きをお持ちください

越前和紙 吹き流し参加

ここ数年毎年参加させていただいている「越前和紙吹き流しコンテスト」。今年は「デイサービスひかり」と小規模こころのご利用者様が団体マスケットを丁寧に貼り絵で制作。国体応援吹き流しが完成しました。大満足の出来上がりです。



↑福井県和紙工業協同組合 シルバー奨励賞

医療法人 誠医会

月岡医院

内科 ● 消化器内科

〒915-0811 越前市本多1丁目10-18

TEL: 0778-23-0220

URL: <http://tsukioka-med.com/>

診療時間 月 火 水 木 金 土 日/祝
8:30~12:30 ○ ○ ○ ○ ○ 休
14:00~18:00 ○ ○ ○ 休 ○ ※ 休

※第2・第4土曜は14:00~16:00の診療
◎毎週月・木曜は早朝診療を実施(AM8:00~)
◎診療の予約承ります

Facebookもご覧ください

